

「広報しながわ」平成 19（2007）年 1 2 月 1 日号より転載
（イラスト：池原昭治）



むかし 豊町 品川昔ばなし



動かなかった不動尊

大井町線の戸越公園駅から商店街を南に二百五十メートルほど行ったところに十字路があり、さらに少し進むと大原不動堂（豊町五丁目）があります。お堂は大正八年（1919）に建てられたもので、六十六部廻国供養塔を台座にして、石で造られた不動尊が本尊として祀られています。

三百年ほど前の夏の暑い日、仏教を修行する人が不動尊をせおい、汗をふきふき歩いていました。

「ふうふう、暑くてかなわない！」

松や杉などの大きな木が立ち並ぶところまでくると、「涼しそうな木陰だ。少し休んでいこう」と不動尊をおろして休憩しました。

少し休むと元気がでたので、「さて、出かけるか」と、不動尊をかつぎあげようとしたのですが、びくともしません。村人にも手伝ってもらいましたが、ついに動かすことができませんでした。困りはて、「お不動様が、この土地にとどまることを望まれているのでしょうか」と持ち上げるのをあきらめ、村人によく頼んでその場を立ち去っていきました。

それから、何十年かたったころ、川崎領（現川崎市）に住む釋直縁というお坊さんが、石で造られた六十六部廻国供養塔を馬にのせて運んでいました。急に雨が降りだしたので、馬をせきたてながら進むと、大木がしげる場所を見つけ、雨やどりをしました。

しばらくすると雨はあがりましたが、馬は動こうとしません。お坊さんも手伝って何とかして馬を進ませようとしたのですが、だめでした。しかたがないので、供養塔を馬からおろし、通りに面した場所に置きました。やがて、その供養塔の右側面には品川道、千束道、左側面には池上道と刻まれ、村人の道しるべにもなったということです。

そして供養塔の上に、近くに祀られていた不動尊が重ねて置かれ、現在のようなかたちになりました。

【六十六部廻国】

全国六十六カ国、一國一カ所の神社や寺などの神聖な場所を、願いをかけるために、お経などをおさめて回りました。